

## 学校相談活動におけるバウムテストの活用についての一考察

竹内 千絵

### 1. 問題と目的

平成7年度から平成12年度における「スクールカウンセラー（以下SC）活用調査研究委託事業」（文部省：当時）を経て、学校現場への臨床心理学の専門家の配置は、年々拡大を見せている。深刻化し、複雑化する問題について、SCが個人にのみではなく、学校全体に対しての援助を行っていくことは重要であると思われる。そのためには、まず個人や環境を適切にアセスメントすることが基盤となるのではないか。石隈（1999）は、学校教育において、子どもへの心理教育的援助サービスに関する意思決定の基盤となるアセスメントを、「心理教育的アセスメント」と呼んでいる。これは、援助の対象となる子どもが課題に取り組むうえで出会う問題や危機の状況についての情報の収集と分析を通して、サービスの方針や計画を立てるための資料を提供するプロセスとして、アセスメントを捉えたものである。この、「援助の対象」は、SCの立場からいえば、「学校全体」である。「学校全体」を考えると、その基盤である児童・生徒全体についてアセスメントを行うことは、その学校を包括的に考えるためのひとつの指標となりはしないだろうか。

種々の検査の中で、子どもに対し、負担にならない形で、援助のための個人的な内的側面について情報収集を行うテストとしては、投映法があげられる。この中で、実施が容易で抵抗が少ないと思われるバウムテストと、不適応問題を欲求不満の観点から見るという意味からPFスタディをとりあげ、心理教育的アセスメントとしての活用を考えた。

本研究では、バウムテストとPFスタディの2つのパーソナリティ検査の間の関連を検討し、学校での実施に適すると思われるバウムテストの、SCによる心理教育的援助サービスへの活用について考察していくことを目的とする。

### 2. 方法

公立中学校1年生男子61名、女子62名の計123名に対し、PFスタディおよびバウムテストを実施した。クラスごとの集団実施で、教示は各検査マニュアルに従った。

バウムテストの結果は、印象に頼らない、新たな評定基準を作成。コッホ（1952）、林ら（1970）の「バウム・

テスト—樹木画による人格診断法—」および先行研究などを参考に、バウムを形成する基本要素といえる「樹冠」「幹」「枝」「実」「根」について検討した。それぞれの要素における特徴の中で、PFスタディによってあらわれるだろうアグレッションの型と方向に関連すると思われるものを採択し、さらにそれが印象によってではなく客観的な事実として評定可能なものであるかを検討した。また、その特徴が実際に得られた中学生のバウムにどの程度出現するかも重要であった。採用に先立ち、2名の評定者と筆者の評定一致率が高いかどうかを確認した。

PFスタディの結果は、評点因子に換算し、プロフィールを作成した。各因子のpercentageと、中学生男子及び女子の標準との平均から、次のように分類した。

「+」「-」…  $M+1, -1$  S.D.以上の差があるもの  
「0」…  $M \pm 1$  S.D.範囲のもの

分類されたPFスタディの出現頻度と、バウムテストの反応との関係を調べるため、バウムテストの反応の頻度を基準として、それぞれ期待値との間でカイ2乗検定（ $df=2$ ）を行った。その後、得られたカイ2乗分布の確率（ $p$ ）が、1%、5%、10%の有意水準に達するかを検討し、それを元に考察を行うものとした。

### 3. 結果と考察

冠部：幹=2:1以上のものについて、大きな冠部は、自信やプライドといった、自己への執着をあらわすものとされる。これは、PFスタディにおいて、自我の強調を意味するE-D%が高く表出する傾向にあることと関連すると思われる。問題解決に関係し、要求に固執するN-P%が低いのは、解決を重視するよりも、自我の強さの方が先行していることを表すのではないか。また、M-Aは、高い場合には自己欺瞞によって防衛することが示されるが、冠部を大きく表出するものは、このM-Aが低い傾向にある。さらに、自責反応を示すI-Aは低く、他責的反応E-A%は高い傾向にある。大きな冠部があらわすプライドの高さや自信が、PFスタディ反応にもあらわれているようである。このような傾向は、GCRが低く表出されることで、やや適応的でないとも考えられる。

樹冠の輪郭は、適応能力や弾力性をもち、また安易に流れ、楽天的な傾向があるとされる。M-Aが低い傾向

にあることから、我慢することや忍耐をもって欲求不満場面にあたるのではないと思われる。O-DやE-Dは高く、I-Aは低いことから、障害や他者に責任を求め、その反面自分は自分を誇示し、問題解決自体は流れに任せていくようである。ただ、GCRは低い傾向にあり、樹冠の輪郭が示す適応能力とは逆の結果となった。これは、障害や他者への責任転嫁と関係があるのかもしれない。

幹に模様（線）が描かれているものについて、幹の表面は、自己とそれを取り巻く環境との境であり、それらが摩擦を起こす場所だと考えられている。そこについた模様は、感じやすさや不安、批判的な面や観察力などを示す。I-A、M-Aの低さに対し、E-Aは高いことから、幹に模様を描くことは、他責的であることがうかがえる。そしてそれは、深層においては、他人からの攻撃を恐れ、そのための防衛機制として投射機制を働かせて、相手を非難し敵意を示すという（林ら）。これは、幹の模様が示す不安や感じやすさと、PFスタディの結果が示す、不安を防衛するための批判的態度との関連を意味するのではないか。それはE-Dが示す自我の強調にもうかがえる。幹の模様は、外界から自分を守るための砦のような役割を示しているのではないだろうか。

実が少ない（2つ以下）ものについて、I-Aの低さは、E-Aの高さと関係し、欲求不満を引き起こすような状況を、他人や環境のせいにし、自責感を強く持たない。また、M-Aは低いことから、感情を抑圧しても自分を守ろうというような、妥協の要素は小さい。実は木における最終的な所産であり、目標や結果、利益を意味する。これらが2つ以下という少なさであられることは、日々の生活のゴールにあるものに対し、あまり期待が持たず、あるいは無関心、悲観的であるといえるかもしれない。何とかして楽しい結果を享受しよう、という積極的な態度ではなく、生活の中で起こる様々な不満を、周りのせいにしてしまうようである。妥協によって問題を解決しようというのでもなく、目標や結果の展望を持ちにくくなっているのかもしれない。

木の要素以外の付属物が描かれているものでは、PFスタディにおいて、GCRが低く、現実適応能力は弱いようである。E-Aは高く、I-A、M-Aは低いため、他責的な傾向がある。これは、心的不安感や自信喪失との関係がうかがわれる。E-Aの高さは自分への攻撃をおそれ、それを先に他者に向けて自分の安定を図る、という投射機制をあらわすことがあり、不安の高さを見せないように、相手を攻撃すると考えられる。これは、E-Dの自我防衛が強いこととも関係するようである。その一方でN-Pは低く、問題解決自体については強くは固

執しない、という面がある。

木が明らかに「小さい」ものについては、E-Aが高く、I-A、M-Aは低い。また、E-Dが高く、N-Pは低い。木の大きさは、エネルギーの大きさや外向性を示すものである。明らかに小さな木は、広がらずに小さくまとまっていて、内向的な印象をもたらす。PFスタディの、E-Dの高さにみられる自我防衛的な面は、この「小ささ」が示す、内にこもるような特徴と関連があるようである。

本研究は、学校現場において、SCが心理教育的援助サービスを行うにあたって、援助の対象となる子どもが課題に取り組むうえでの問題や危機を、その子どもの情報をアセスメントによって収集することで予想・把握し、サービスに役立てていく、というアセスメントを行う意義から生まれたものである。

バウムテストのように、実施が容易で子どもの側に不審や不安を抱かせにくいアセスメントは、学校全体での実施が可能であり、すべての子どもと接する機会の少ないSCにとって、重要な情報となりうるであろう。そのバウムテストと、フラストレーションへの対処の仕方についての情報が得られるPFスタディとの間に、今回見出されたような関係があるとすれば、それを考慮に入れてバウムテストの分析をすることが可能であろう。

本研究は、アセスメントを心理教育的援助サービスの一環として役立てるために、まず学校の子ども全体におこなえるようなパーソナリティテストがありえないか、という観点に基づくものである。特にバウムテストの持つ利点は、そのまま学校で使用するアセスメントとしての利点であると思われる。しかし、アセスメントはあくまで援助の参考としての情報であり、それ自体が何らかの子どもの「問題」を発見するためのものではない。SCが発見すべきものは、「解決すべき問題そのもの」のみではなく、「求められている援助役割」ではないだろうか。援助サービスを行うものとして、アセスメントとは必要不可欠のものではないか。SCは、子ども一人一人の援助者であることは間違いないことであるが、その上で学校全体の援助者でもある。援助役割を見出すには、個々の性格傾向が寄り集まった、「学校全体の性格傾向」とも呼ぶべきものも、やはり把握しておくべきであろう。今後も、SCの活動におけるアセスメントの必要性はますます高まると思われる。学校におけるバウムテストの実施については、児童生徒を理解するためのテストバッテリーの一つとして、さらなる活用が期待されるものである。